



カチューシャかわいや わかれのつらさ
せめて淡雪 とけぬ間と
「カチューシャの唄」より

いのち短し 恋せよ少女
朱き唇 襷せぬ間に
「ゴンドラの唄」より



平成22年度(第65回)文化庁芸術祭参加公演

後藤好子ひとり芝居

須磨子という名の正子

作・演出 ふじたあさや ～女優・松井須磨子の光と影～

2010年11月10日(水) 午後1時30分・午後7時

会場 座・高円寺2

料金 一般 3,000円 / 学生 2,000円 (日時指定・全自由席・当日は500円増)

主催 総合劇集団俳優館 / 後藤好子ひとり芝居実行委員会・杉並



大正時代、カチューシャの唄とともに、一世を風靡し、絶大な人気を誇った女優・松井須磨子。「新しい女性像」として女性達の憧れの的でもあった須磨子であるが、大正8年1月自らの人生に幕を下ろした。そんな須磨子の生きざまと彼女を取り巻く人間達を、住み込みの女中・正子の目を通して描くひとり芝居。気のいい女中の噂話を聞きながら、観客は知らない間に芝居の中に取り込まれていき、大きな感涙を得る事でしょう。須磨子が、人間が、愛しく思えてくる作品です。

須磨子と好子 ふじたあさや

「松井須磨子なんか芝居になりませんか」と、後藤好子が言ってきたとき、ぼくは「なるほど」と、納得した思いだった。そうか、後藤好子は松井須磨子に関心があったのか、それなら分かる、と思った。分かると思った理由はいくつかある。ひとつは、二人ともいつも、明日は違う自分になる、と、思っていることだ。こんなはずではない、と、思っているということでもある。絶えず内側に、自分に対する不満を抱いていて、満足することはない。ふたつには、その実、ふたりとも、他人に口出しはさせないという、強い意志を持っているということがある。須磨子のそれは、はなはだ強く、周囲を辟易させるほどだったという。ところが、見た目は裏腹に、二人とも自分にコンプレックスを抱いていて、それがどうやら前進のエネルギーになっているらしいのだ。須磨子の場合には、結婚に失敗しているというコンプレックス、育った環境が周囲の女優たちと違う、自分は無学な田舎者だというコンプレックスだった。これだけはどうやら違うと思えるのが、須磨子は絶えず男にすがらないと生きてはいけない女だった、ということだ。男を食い物にしていると、袖にされた男たちは悪口を言った。それだけ須磨子は、男好きのする女だったのだろう。ぼくは、そうしたプラスマイナスのすべてをエネルギーにしながら、須磨子は、新劇の大衆化といういまだ果たされていない夢を、ただひとり果たした先覚者だと思っている。後藤好子には、男は食い物にしないで良いから、この夢だけは須磨子と共有してもらいたい、と願っている。ところでこの芝居、須磨子を描きながら須磨子は登場しない。その方が須磨子を描くのに都合良かったからだが、その点では、須磨子を演じたかった好子には悪いことをしたかな、と、思っている。



後藤好子

南山短期大学在学時、ESSドラマフェスティバル・ベストアクトレス賞を受賞。卒業後、俳優館アカデミーを経て俳優館に入団。以後、中心女優として活躍。全国での公演を重ねる。代表作は「カレライス物語」「雨ニモマケズ!」「春香伝・伝」「ぼくらはみんな生きている!」他。躍動感溢れる演技が魅力で、外部への出演も多い。名古屋市文化振興事業団「天国と地獄」(2002年)、ぎふ市民創作野外劇(2001年)、他。大須オペラ・大須師走歌舞伎では「カルメン」(カルメン役)、「青ひび」(プロテジェ)、「バロマの前夜祭」(アントニア役)、「将門伝説後日の旗上」(龍夜叉姫役)他。近年の殆どの作品に主要キャストとして客演している。平成10年度文化庁芸術インターシップ研修員。平成13年度(社)日本劇団協議会ワークショップスカラーシップ生。



松井須磨子

本名・小林正子。日本初の新劇女優。長野県松本市清野に土族の五女として誕生。17歳で上京後、2度の結婚・離婚を経験するが、2度目の夫の影響で演劇に興味を持ち、坪内逍遙の文藝協会演劇研究所第一期生として女優としての活動を開始。「人形の家」のノラや「復活」のカチューシャでスターとなる。劇中に歌った「カチューシャの唄」や「ゴンドラの唄」は爆発的な人気で、この時代の一世を風靡。大正8年、師であり、愛人であった島村抱月の死を追って「カルメン」の上演期間中に32歳の生涯に自ら幕を下ろす。須磨子は抱月の墓と一緒に埋葬される事を望んだが、それは叶わぬ夢であった。自由奔放に情熱的に生きた女性、松井須磨子。余談だが、1917年発売の「今度生まれたら」により日本における禁禁レコード第一号ともなっている。

前回の公演から

- 鳥肌が立ちました。泣きました。圧倒されました。本当に凄かったです。(20代 男性)
- 女中・正子の口から語られる須磨子の姿は、よりリアルに個々の観客の中に再現されました。時代を超えて須磨子に出会った気がしました。(30代 女性)
- 迫力ある演技、七色の声に魅了された。何人も出ている舞台と同じ思いで観られ、一人芝居に対する先入観を一掃してくれた。(70代 男性)
- 登場人物たちの人間奥さを感じました。大正という時代を背景に、理想を求め駆け抜けて行った男と女がいたのですね。全篇に流れていた歌が、とても艶っぽかったです。(50代 女性)
- 後藤好子は、この作品をライフワークにすべきだ!(2004年11月 中日新聞より)

舞台美術 ふじたあさや 衣装 中矢恵子 照明 福井孝子

スタッフ 音響 堀場智宏 舞台監督 ワタナベカズミ 演出助手 中田裕子
小道具 工藤真 宣伝美術 内藤彰子 製作 森 創

2010年11月10日(水) 午後1時30分・午後7時
料金 一般 3,000円・学生 2,000円
(日時指定・全自由席・当日は500円増、開場は開演の30分前です)

チケット取扱い

- ◆ローソンチケット 0570-084-004 (Lコード31597) ローソン全店
- ◆チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード407-040) チケットぴあ、セブンイレブン、サークルK、サンクスの各店舗
- ◆カンフェティ <http://confetti-web.com>
- ◆俳優館 052-203-8721

お問合せ

総合劇集団 俳優館 〒460-0008 名古屋市中区栄1-22-17
TEL 052-203-8721 FAX 052-203-8729
ホームページ <http://www.hi-you-can.com> Eメール ttm-mr@ss.ij4u.or.jp

